

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第6回) 議事次第

日 時 : 令和5年3月20日 (月) 14:00 ~ 15:30

場 所 : グランディエール ブケトーカイ (4F シンフォニー)

1 開会

2 報告

(1) 基本構想の審議状況 【資料1】

(2) 文部科学省相談結果 [非公開] 【資料2】

(3) 養成する人材像 (案) [非公開] 【資料3】

(4) 研究分野に関する基本方針 (案) [非公開] 【資料4】

3 その他 [非公開] 【資料5】

4 閉会

資 料

議事次第

委員名簿

資料1 基本構想の審議状況

資料2 文部科学省相談結果 (報告)

資料3 養成する人材像 (案)

資料4 研究分野に関する基本方針 (案)

資料5 その他

参考資料 第5回準備委員会の概要

① 第5回準備委員会 審議結果・主な意見

② (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方 (案)

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

主 な 役 職 等	氏 名	出 欠	参加方法	
			会場	WEB
静岡県立病院機構 理事長	田中 一成 【委員長】	○	○	
慶応義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科 教授 静岡社会健康医学大学院大学 副理事長 (将来構想担当)	伊藤 裕	○		○
京都大学理事・副学長 (プロボスト)	岩井 一宏	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事 (教育研究担当) 兼副学長	浦野 哲盟	○	○	
静岡県立大学 特別顧問	木苗 直秀	○	○	
静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 院長	小西 靖彦	○	○	
一般社団法人静岡県医師会 副会長	齋藤 昌一	○		○
株式会社静岡銀行 取締役会長 一般社団法人静岡県経営者協会 会長	中西 勝則	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事長兼学長	宮地 良樹	○	○	
浜松医科大学 理事 (企画・評価担当) 兼副学長	渡邊 裕司	○		○ 14:50 途中退出
公益社団法人静岡県看護協会 会長 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会 会長	渡邊 昌子	○	○	

出席委員 11 8 3
全委員数 11

基本構想の審議状況

I (仮称) 医科大学院大学の設置目的

1 優れた医師の確保

(1) 医師確保に向けた本県の主な取組

ア ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ

イ 専門研修の指導医確保

(2) 医師数等の現状

ア 県内医師数の現状

・ 病院勤務医の不足 ・ 地域間の偏在 ・ 診療科間の偏在

イ 本県の医師養成の現状

・ 人口 10 万人当たり医学部定員 全国 46 位
・ 医学部進学者が人口規模からの想定水準の 7 割

2 臨床応用を志向した研究の推進

(1) 我が国の臨床医学研究に関する課題

・ 基礎研究が重視され、臨床医学研究者が不足 → 新たな治療法提供の遅れに直結

(2) 臨床医学研究に関する本県の状況

・ 浜松医科大学 ・ 静岡県立総合病院 ・ 社会健康医学大学院大学 ・ 静岡がんセンター

(3) 本県の医学研究者養成の現状

・ 人口 10 万人当たり医学系大学院定員 全国 46 位

3 医師確保と臨床医学研究の推進に向けて必要な取組

(1) 医師確保と県内定着の促進

・ 若手医師の志向に沿ったキャリア形成

→ 専門医資格を取得できる研修環境の充実

・ ホターメイド型のサポート・キャリア支援

→ 学位を取得しやすい研究環境の整備

→ サポート及びキャリア形成支援機能の強化

(2) 地域間・診療科間の偏在解消

・ 地域の医療機関への医師派遣

→ 医師派遣機能の強化

・ 指導人材の確保

→ 指導医養成体制の強化

(3) 臨床医学研究の推進

・ Physician Scientist の養成

→ 臨床医学研究者の養成

・ 研究環境を有する医療機関の確保

→ 臨床データに基づく研究の推進

4 (仮称) 医科大学院大学の必要性

(1) 医師確保機能の強化

・ 優れた指導者の確保 ・ 医師集積拠点の確保

(2) 臨床医学研究の推進

・ 医学系大学院の入学定員拡充 ・ 県内医療機関の研究機能充実 ・ 社会健康医学の発展

⇒ (仮称) 医科大学院大学の設置が医師確保と臨床研究推進に向けた最適な解決策

5 (仮称) 医科大学院大学に期待する効果

○ 臨床と研究が持続的に両立できる環境の提供

○ 県内医師のサポート及びキャリア形成支援機能の強化

・ 県内医師の資質向上

○ 医師集積拠点の構築による医師派遣機能の強化

・ 医学部医学科への進学者増加

○ 健康長寿社会の実現に向けた臨床医学研究の発展

・ 研究成果の地域への還元

II (仮称) 医科大学院大学が目指す方向性

1 基本理念

健康長寿社会の実現に向け、新たな医療につながる、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探求するとともに、国際的な視野を持ち、関連し合う領域の臨床技術と研究能力を高め続ける医師を養成することを通じ、地域医療水準の向上を目指す。

2 基本方針

- (1) 新たな医療につながる学問の探求
- (2) 複数領域の臨床技術・研究能力を高め続ける医師の養成
- (3) 医療機関を基盤とした横断的、融合的な研究の推進
- (4) 地域医療水準向上への貢献
- (5) 国際的な視野の涵養と海外との研究交流の推進

3 養成する人材像

健康長寿社会の実現と医学・医療の発展に寄与するために、生涯にわたり、関連し合う領域において全人的医療のための臨床技能と、発見した課題を解決する研究能力の双方を自律的に高め続ける Physician Scientist であり、地域の医療分野における指導者となり得る国際的な視野を持った医療人を養成する。

4 研究分野に関する基本方針（継続検討）

- (1) 研究分野に関する基本的な考え方
 - ① 医療機関の特長等を活用した、既存の枠にとらわれない研究分野
 - ② 臨床課題を解決する、ヒューマンバイオロジーを中心とした研究分野
 - ③ 社会健康医学を取り入れ、全人的視点を重視した研究分野
 - ④ 地域の課題を解決し、医療水準向上に資する研究分野
 - ⑤ 国内外の研究・医療機関、産業界との連携の下、本県の特性を活かせる研究分野
 - ⑥ 時代の要請に応じた、将来性のある研究分野
- (2) 研究分野の方向性
 - ・ 臨床応用を志向した、地域課題の解決に資する横断的・融合的な研究分野
 - ・ 社会健康医学の研究成果を活かす、全人的な視点を重視した研究分野
 - ・ 本県の特性を活かし、国内外の研究・医療機関、産業界と連携した研究分野

5 取得できる学位

博士（医学）

6 (仮称) 医科大学院大学の設置方法（継続検討）

- (1) 設置方法、研究科・専攻の構成

基本理念の実現に向け最も適した設置方法により、医学研究科医学専攻を設置
- (2) 入学定員

浜松医科大学をはじめ、他の医学系大学院を参考に、引き続き検討

7 附属病院に関する基本方針（継続検討）

医学部を基盤としない(仮称)医科大学院大学において、地域の中心的な医療機関として高度専門医療を担い、小児・周産期、精神、がんなどの特徴的な分野を含む大規模な病床を持つ県立病院を、質・量ともに充実した附属病院として、その機能を最大限活用し、魅力的な教育・研究環境と高度先進・専門的な臨床機能を一体的に確保